

令和3年度
自己点検・評価書

佐賀大学
アドミッションセンター

| | |
|----------------------|---|
| I. アドミッションセンターの目的と概要 | 3 |
|----------------------|---|

II. 領域別評価（組織運営の領域）

| | |
|-----|---|
| 観点① | 4 |
| 観点② | 8 |

III 令和3年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、平成19年9月19日付のセンター要項に基づき同年10月1日に設置された。センター長（併任：1名）、専任教員（1名）及び特任講師（1名：平成28年度より着任）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは、入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は、年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では、「令和3年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし、点検および評価を行う。以下、同報告書は、「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■ 佐賀大学版 C B T の開発と実施

「基礎学力・学習力テスト」は，理工学部及び農学部の学校推薦型選抜Ⅰに加え，今年度より経済学部の学校推薦型推薦Ⅰでも実施した（受験者数は理工学部が 27 名，農学部が 7 名，経済学部が 155 名）。また，教育学部（英語分野）の総合型選抜Ⅰでは英語のスピーキングとリスニングの評価するテストを 13 名が受験，理工学部（化学分野）の総合型選抜Ⅰでは，実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテストを 18 名が受験，農学部（国際・地域マネジメントコース）の総合型選抜Ⅰでは，英語の動画を材料としたテストを 11 名が受験した。また，今年度より医学部（看護学科）の編入学試験（受験者 3 名），と芸術地域デザイン学部の編入学試験で（受験者 17 名）が新たに C B T を用いた評価を行った。

■ 特色加点制度の実施

昨年度に引き続き，医学部と芸術地域デザイン学部（芸術表現コース）をのぞくすべての一般選抜の募集区分で特色加点を実施した。今年度は，特色加点による可否入れ替わり受験者を自動で抽出するツールを開発し，追跡調査の実施環境の充実化を図った。

■ 電子書類審査システムの運用と機能強化

特色加点制度を円滑に実施する電子書類審査システム（J-Bridge System）を 2019 年度入試から運用している。前年度入試の課題・改善点を踏まえ，機能の改善を行った。また，総合型選抜，学校推薦型選抜にも拡大し，すべての入試区分で同システムを利用できる状況となった。さらに，調査書の電子化の実現性を検証するために，紙媒体の調査書を A I によって読み取り電子化する方法を模索し，株式会社ミラボと共同で実際の調査書を用いた試行的な調査を行った。

■ 後期日程における受験座席の効率化配置

昨年度から実施している後期日程受験座席の効率化配置について，D X 推進準備室と連携して，システムの開発（アプリ化）を進め，同システムをアプリ化した。本システムを用いて後期日程を実施したところ，混乱もなく運用することができた。

■ 新型コロナウイルスに対する対応

昨年度に引き続き，新型コロナウイルスに対応するための方策を検討した。特に，令和 4 年 1 月の入試直前に文部科学省より通知された受験機会の更なる確保への対応について方針を提案した。

■ 令和7年度入試（新学習指導要領）への対応

令和7年度入試の2年前予告に向けて、「情報Ⅰ」の共通テストにおける取り扱いをはじめとする各種検討事項を整理し、学部で検討するための考え方を提案した。

（分析結果とその根拠）

佐賀大学版CBTの3タイプの試験を選抜区分の特徴に応じて導入し、200名を超える受験者を対象に実施できている。また、特色加点制度の検証を効率かつ効果的に行うツールや後期日程の受験生座席配置システムを開発し、入試におけるDXが進んでいる。さらに、令和7年度入試の対応に関し、各学部へアドミッションセンターからの提案を行っており、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援を積極的に行っている。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■ 各種説明会等の実施

受験産業等が主催する進学説明会（「報告書」 pp.248-249）

高校や予備校等で実施する大学説明会（「報告書」 p.250）

高校からの大学訪問において実施する説明会（「報告書」 p.250）

九州地区国立大学合同説明会（コロナのため実施なし）

高校教員対象の入試説明会（「報告書」 p.251）

■ オープンキャンパスの企画・実施（「報告書」 p.252）

■ 佐賀大学案内冊子の編集（「報告書」 p.252）

■ 入試直前説明会（コロナのため実施なし）

■ ジョイントセミナーの管理・運営（「報告書」 pp.253-254）

■ 継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施：（「報告書」 pp.255-256）

■ きめ細やかな高校訪問（「報告書」 pp.95-115）

（分析結果とその根拠）

令和2年度に引き続き、コロナ禍対応の広報活動とはなったが、対面形式の説明会を徐々に展

開することで、広報活動の範囲を少しずつ広げることができた。特に、きめ細やかな高校訪問によって、必要な情報を必要な時に進路指導現場に提供するとともに、令和7年度入試に向けた高校現場の認識についても有効な情報を収集することができている。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。なお、高校活動を中心的に担っている特任講師の任期が令和3年度までとなっており、これまで一定の成果を出してきた活動をどのように継続するのか検討する必要がある。

観点①-3 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

令和3年度は、以下の調査研究を行った(「報告書」を参照)。

- ① 令和3年度一般入試における志願動向分析(入学試験委員会で報告)
- ② 令和3年度一般入試結果の検証
- ③ 令和3年度入学者アンケート調査実施・分析
- ④ H29年度入学者の追跡調査
- ⑤ 令和3年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
- ⑥ 令和3年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析(コロナ禍のため未実施)
- ⑦ 高等学校訪問による聞き取り調査
- ⑧ 経済学部における改組後の志願者動向分析
- ⑨ 医学部医学科入試制度検討のための分析
- ⑩ 特別選抜に関する志願者動向分析

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができている。さらに、新たに導入した制度の検証なども精力的に行っている。

以上のことから入学者選抜に関する調査研究の業務が十分に遂行できていると判断できる。今後も、入試制度や高大接続事業関連の改善に資する調査研究が実施されることが期待される。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係わる状況)

運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第14条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。令和3年度は、運営委員会が1回、入学者選抜方法等専門委員会が3回、広報・高大接続等専門委員会が2回実施された(「報告書」pp.257-258)。各委員会の構成メンバーは、「報告書」(p.129)の通りである。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

目的: 入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容:

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. その他入学者選抜に関すること

| 委員会名称 | 構成員 |
|---------------|-------------------------------------|
| 運営委員会 | センター長、副センター長、専任教員、学部の入試委員 |
| 企画委員会 | センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長 |
| 入学者選抜方法等専門委員会 | センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長 |
| 広報・高大接続等専門委員会 | センター長、副センター長、専任教員、各学部から選出された教員、入試課長 |

(分析結果とその根拠)

定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し、センターの業務を着実に実行していることから、組織運営が十分に行われていると判断できる。